

式辞

日ごとに春の訪れを感じるこの佳き日にご来賓及び保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業証書授与式を挙行できますことは大きな喜びであり、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございませす。お子様の高校卒業という大きな節目を迎えられ、慶びもひとしおのことと存じます。ご迷惑やご心配をおかけすることもございましたが、その中でも三年間あるいは四年間にわたり、本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、ただいま卒業証書を授与した全日制三百十一名、定時制四年生十三名、三修生十一名の皆さん、卒業おめでとう。上田高校で過ごす中で、皆さんは本校の目指すところである、全日制にあつては、主体的に行動する力、新しい価値や未来を創造する力、自分の幸福とともに他の人の幸福のために貢献する力を、定時制にあつては、協調性や主体性を身につけ、社会に出て活躍できる力を、それぞれ確かに育ててくれま

した。その成長を、大変嬉しく、また誇りに思います。

本日、本校を巣立つ皆さんに最後に伝えたいことは二つです。一つ目は、己の使命を探し続け、そしてそれを見つけたなら、どうか矜持を持って取り組んでほしいということです。これは、入学式で皆さんに伝えただことでもあります。

先日のプロジェクトXでは、東京から長野まで開通していた新幹線を北陸へとつなぐため、飯山トンネルに挑んだ技術者たちの姿が紹介されてきました。ある技術者は、この仕事は自分には荷が重い、引き受けたくないと感じたそうです。しかし断らなかったのは、開通を待ち望む北陸の人々に、新幹線を届けることこそが自分の使命だと信じたからです。まさにこれが、自分の仕事・使命に対する矜持というものなのだと思います。

高校時代に己の使命や、それに伴う矜持を見つけることが難しかったとしても、これは皆さんが今後の人生で必ず向き合ってほしい問いです。何のために生まれ、何をして生きるのか——折に触れて、どうか自分自身に問いかけ続けてください。

先日発行された上田高校新聞では「戦争」が特集されていました。戦

争を二度と起こしてはならないという先人たちの熱いメッセージが紙面にあふれていました。八十年も前に日本と世界は戦争の愚かさを学んだはずなのに、いま再び世界のあちこちで戦火が上がっています。

そんな世の中だからこそ、二つ目に皆さんに伝えたいことは、ゆるやかな利他の心を持ったグローバルリーダーたれということです。残念ながら、昨今は自分のことだけを優先して考えてしまう利己的な人が増えていくように感じる場合があります。でも、少し他人を思いやる心があれば、世の中はもう少し優しく、過ごしやすくなるはずです。利他とは、大げさに自分を犠牲にして誰かのために尽くすことではありません。自分を大切にしながら、ほんの少しだけ人のために心を向けること——それで十分なのです。また、グローバルリーダーといっても世界のどこかで大きなことを成し遂げる人、ということではなく、身近な場面ですっと誰かを思いやれる人のことです。そんな「ちょっとだけ優しい気持ち」を、私はゆるやかな利他と呼びたいのです。世界は一人ひとりの力で回っています。だからこそ、ゆるやかな利他の気持ちがあれば、社会は必ず良い方向へ動いていきます。先ほどの新幹線の技術者も、北陸の人々のためにという思いがあったからこそ難工事に挑むことができました。人の幸せを願う心があれば、戦争という選択肢は生まれません。

す。

これからの世界をつくっていくのは、ほかでもない皆さんです。どうか、ゆるやかな利他の心を胸に、あなたらしいグローバルリーダーになってください。

皆さんがこれから歩む道には、喜びもあれば、迷いや葛藤や困難もあるでしょう。思い通りにいかない日も、立ち止まりたくなる瞬間も、きつと訪れます。でもそれは、あなたが大きく成長するチャンスでもありません。自らの使命を探し続ける力も、矜持を持って踏み出す勇気も、そして誰かの幸せを願う優しさも、すでに皆さんの中に育っています。どうか恐れずに、自分の人生を切り拓いてください。世界は広く、そして皆さんを必要としています。皆さんは希望です。皆さんがどこへ行っても、どんな道を選んでも、上田高校で培った力は必ず皆さんを支え、周囲の人々を照らす光となるはずです。

私が誇りを持って送り出す三百三十五名の卒業生の皆さん、皆さんのこれからの人生に幸多からんことを心から願っています。本日は卒業、誠におめでとう。

令和八年三月三日

長野県上田高等学校 校長 宮下美和

